第４学年１組　社会科学習指導案

１　単元　安全なくらしとまちづくり　～水害からくらしをまもる～

２　指導観

○　本学級の子どもは「去年は，大雨で大変だった。また，起こったらどうしよう。」と豪雨災害への対策に関心をもち始めている。具体的な資料を活用して，調べる力は付いてきたが，調べたことを基に，比較・関連・総合的に考えたり，意味づけたりする力や考えを説明する力は十分でない。

○　本単元では，学習指導要領内容（４）を受けて設定した。本単元は，北九州市の水害からまちを守るための市や地域住民の取り組みをとらえ，人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えることができることをねらいとしている。

○　指導に当たっては，次の手立てをとる。

【着眼１】　自ら問いを見いだし，主体的に問題を解決する学習展開の設定

段階	自ら問いを見いだし，主体的に問題解決する学習展開の工夫
つかむ③	【問い】 ○　北九州市では，豪雨のためにどのような備えをしているのだろう。 【問いを見いだすための工夫】 ○　豪雨被害を受けたときの様子と豪雨でも被害が起こらなかったときの様子
さぐる・まとめる④	【問題解決の手立て】 ○　市の危機管理室の人・地域の人への　インタビュー活動 ○　分かったことを出し合う，考えの交流
生かす②	【問い】 ○　災害に備え，わたしには，どんなことが必要なのだろう。 【問いを見いだすための工夫】 ○　若年層の地域防災会議・防災訓練の参加割合の提示

【着眼２】　対話を促す学習活動の工夫

水害の減災に努める人々の働きについて，過去の災害の様子や災害時のまちの人の思いや関係機関の人の思いなどを根拠にして自己の考えを広げ深めることができるように，「どうして，必要以上と思われることをするのだろう。」と問いを焦点化する。その際，クラゲチャートなどの思考ツールを用いて表現する学習活動を工夫する。

【着眼３】　評価を生かした指導の工夫

子どもの思考・判断・表現の現状を見取ることができるように，文章表現や思考ツールに考えを書く場を設定する。すべての子どもが主眼を達成することができるように，声かけ計画表を基に個に応じた指導を行う。

	声かけの具体例
考えをもつための声かけ	○　友達の意見の中から，自分の考えに近いものを選びましょう。 ○　黒板のキーワードを使って，考えてみましょう。 ○　先生が丸をつけた言葉について，考えてみましょう。
考えを広げ深めるための声かけ	○　友達のこの考えについては，どう思いますか。 ○　２つのことを比べたり，まとめたりして考えをまとめてみましょう。 ○　どうして，そのように考えましたか。理由も書きましょう。

３　小単元の目標

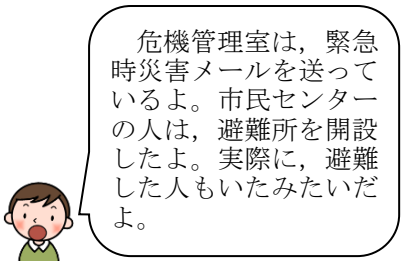
社会的事象への関心・意欲・態度	○　北九州市の水害が起きたときの緊急体制や減災の取組を意欲的に調べ，災害対策について関心を高めたり，地域の一員として減災に共に取り組もうとする意欲を高めたりすることができる。
社会的な思考・判断・表現	○　水害からくらしを守る取組に従事している人々は，関係機関や地域の人々と協力して，災害に対処したり，今後想定される災害に備えたりしていることをとらえ，その働きを考え，表現することができる。
観察・資料活用の技能	○　北九州市の水害からくらしを守るための取組にかかわる各種具体的資料を活用し，必要な情報を読み取り，まとめることができる。
社会的事象についての知識・理解	○　地域の関係機関や人々は，水害に対して様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，さまざまな備えをしていることを理解できる。

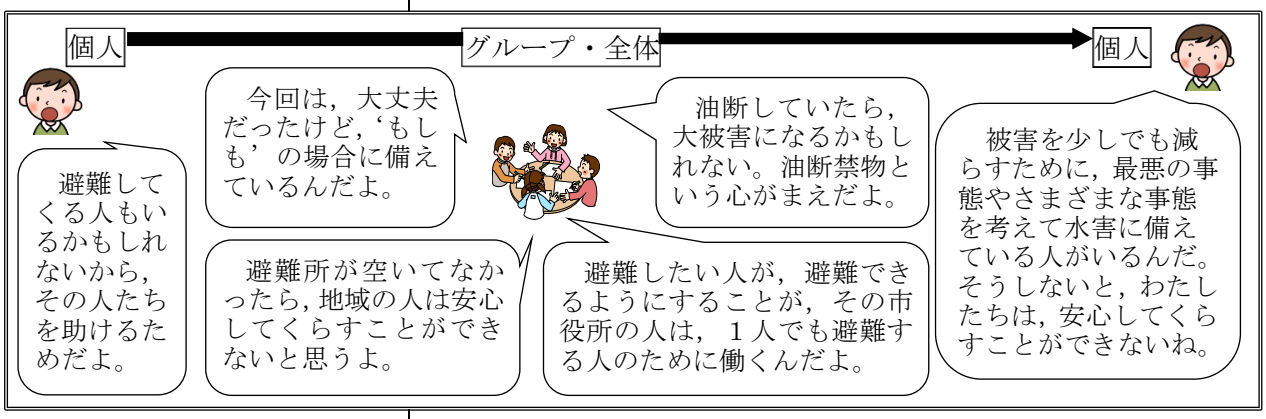
４　**本時の学習**　　令和元年　１０月４日（金）　第５校時　　於：４年１組教室

⑴　**主眼**　市役所や市民の防災に向けた取組について調べたことを出し合い，実際に被害があるという事実を結んで考える活動を通して，災害からくらしを守る人々の取組の意味を考えることができるようにする。

⑵　**準備**　危機管理室の取組や市民の取組の様子を表す写真資料，ホワイトボード　など

⑶　**展開**

主な学習活動・内容	○　指導・支援上の留意点　【観点】評価規準（評価方法）
１．前時の学習を想起し，本時のめあてをつかむ。	○　めあてをつかみ，見通しをもつことができるように，前時までに豪雨災害が起きた時や豪雨に備えている人の取組について，だれがどんな取組をしているのかという視点で調べ，まとめる。
（めあて）　なぜ，北九州市では，水害にそなえてたくさんの取組をしているのだろう。	
２．調べたことを出し合う。  	○　調べたことを可視化・共有化することができるように，だれがどのようなことをしたのか子どもの発言を板書する。その際，「市役所の人の取組」「市民の取組」に分類・整理し，意図的に板書する。 ○　「災害は起きるもの」「防災だけでなく減災を目指す」という視点から取組の意味を考えることができるように，実際に被害が起こっている資料を提示し，「実際に被害が起こっているのになぜ，水害に備えた取組をするのだろう。」と問いを焦点化する。
３．北九州市の人々の工夫の意味を考え，表現する。 ⑴　個人で考えを書く。 ⑵　小グループで話し合う。 ⑶　学級全体で話し合う。 ⑷　自分の考えを再構成する。	○　子どもの考えを見取ることができるように，ノートやクラゲチャートを用いて表現する場を設定する。また，声かけ計画表を基に見取ったことを生かして個に応じた指導を行う。 ○　本時の学習をまとめることができるように，めあてと結んで分かったことや考えたことなどを書く時間を十分に確保する。 **【思】　災害からまちを守る人々の取組の意味を考えている。** **（記述分析）**



（まとめ）　北九州市では，災害がいつか起こりうると考え，被害を少しでも減らしたり，人々が安心したりできるようにたくさんの取組を行っている。	
４．本時の学習をふり返り，次時の学習について話し合う。	○　これまでの学びをふり返り，次時に問題意識をつなげることができるように，「市民の取組」についてどう考えたのか記述する場を設定する。